

「ガイドンス 確率統計」正誤表

初版1刷, 2刷, 3刷, 4刷の正誤表 (2025年3月17日)

東京都立大学の松山洋教授, 酒井裕司さんには4刷発行後に誤りをご指摘頂きました。ここに謝辞を述べさせていただきます。

頁	場所	誤	正
3	和事象と積事象の説明文	この和事象と積事象を内包的記法で表すと	この和事象と積事象を それぞれ 内包的記法で表すと
26	定義 2.1.4	(2.3) で与えられる離散分布が あって ,	(2.3) で与えられる離散分布が 存在して ,
33	定義 2.1.6	ある密度関数 $f(x)$ が あって ,	ある密度関数 $f(x)$ が 存在して ,
54	注意 2.3.5	ここで, $x \wedge y$ は x と y の 小さい方 , $x \vee y$ は x と y の 大きい方 とした。	ここで, $x \wedge y$ は x と y の 最小値 , $x \vee y$ は x と y の 最大値 である。
55	演習 2.2	約何 cm 以上あればよいか答えよ (表 C.1 を利用すること)。	約何 cm 以上あればよいか答えよ。(表 C.1 を利用すること。)
55	演習 2.3	a は整数とし,	a は -1 と異なる 整数とし,
55	演習 2.6	ただし $a \vee b$ は, $a \geq b$ のときは a であり, $a \leq b$ のときは b である。	ただし, $a \vee b$ は a と b の 最大値 である。
60	系 3.2.1 の証明	ここで, $a \wedge b$ は a と b の 小さい方 , $a \vee b$ は a と b の 大きい方 とした。	ここで, $a \wedge b$ は a と b の 最小値 , $a \vee b$ は a と b の 最大値 である。
64	定義 3.2.4	ある同時密度関数 $f(x, y)$ が あって ,	ある同時密度関数 $f(x, y)$ が 存在して ,
67	定理 3.2.1 [証明]	さらに, X と Y が独立であれば, X と Y の周辺密度関数 $g(x)$ と $h(y)$ に対して,	さらに, X と Y が独立であれば, X, Y の周辺密度関数 $g(x), h(y)$ に対して,
74	例 3.2.4	このことから, 相関の強弱を -1 以上かつ...	このことから, 相関の強弱は -1 以上かつ...
98	演習 3.1	ただし $X_1 \vee X_2$ は, $X_1 \leq X_2$ のときは X_2 であり, $X_1 \geq X_2$ のときは X_1 である。	ただし, $X_1 \vee X_2$ は X_1 と X_2 の 最大値 である。
99	演習 3.6	ただし, $X \wedge Y$ は X と Y の 小さい方 , $X \vee Y$ は X と Y の 大きい方 とする。	ただし, $X \wedge Y$ は X と Y の 最小値 , $X \vee Y$ は X と Y の 最大値 である。
118	定理 5.1.3	実数 μ と正の定数 $K < \infty$ が あって ,	実数 μ と正の定数 $K < \infty$ が 存在して ,

頁	場所	誤	正
124	命題 5.2.1 の証明	ただし, $N_1 \vee N_2$ は N_1 と N_2 の大きい方とする.	ただし, $N_1 \vee N_2$ は N_1 と N_2 の最大値である.
158	7.1 節	このように, H_0 を棄却するか, 受容するかの判定を行うことを	(改行に伴う空白) このように, H_0 を棄却するか, 受容するかの判定を行うことを
169	(7.50) 式	$\tilde{T}_n := \frac{\sqrt{n}(\bar{p}_n - p)}{\sqrt{p(1-p)}}$	$\tilde{T}_n = \frac{\sqrt{n}(\bar{p}_n - p)}{\sqrt{p(1-p)}}$
178	定理 A.2.1 の証明	ここで, $k \wedge l$ は k と l の小さい方, $k \vee l$ は k と l の大きい方とする.	ここで, $k \wedge l$ は k と l の最小値, $k \vee l$ は k と l の最大値である.
179	補題 A.2.1	ここで, $k \wedge l$ は k と l の小さい方, $k \vee l$ は k と l の大きい方とする.	ここで, $k \wedge l$ は k と l の最小値, $k \vee l$ は k と l の最大値である.
208	A.17 直行行列の基本性質・正規直交化法	定理 6.1.2 (基本的な統計量の標本分布に関する結果) で証明で必要となる, 「直行行列の基本性質」(命題 A.17.1) と	定理 6.1.2 (基本的な統計量の標本分布に関する結果) の証明で必要となる「直行行列の基本性質」(命題 A.17.1) と